

蔵王スキー修学旅行4年ぶりに復活

60回生蔵王修学旅行まであと2日

新型コロナウイルスの影響による様々な制限の中で行われてきた修学旅行だが、ついに今年から蔵王スキー旅行が復活する。今号では錦城の修学旅行を特集した。(編集部共同取材)



玉こんにゃく片手にピース (2018年第252号より)

蔵王修学旅行で買うお土産の定番といえば、玉こんにゃくや「蔵王銘菓樹氷ロマン」などであろう。しかし、あえて王道でない食べ物に挑戦するのはいかがだろうか。ここでは、蔵王ならではのお土産を紹介する。

蔵王のお土産セレクトタイム!

①蔵王のスイーツ

蔵王で人気のたまごプリン「森の芽ぶきたまご舎 蔵王のたまごプリン」は蔵王の良質な素材をふんだんに使用したプリン。蔵王の豊かな自然のなかで育った鶏の卵と、厳選した蔵王産の牛乳・生クリームを使用。消費期限は、発送日を含めて6日ととても短い。新鮮なうちに食べるのがおすすめだ。

②蔵王の山菜漬汁

蔵王周辺は美味しい山菜が豊富である。蔵王山麓で栽培され、収穫までに8年かかると言われる幻の山菜行者にんじくの生の葉を特製醤油漬けにした行者にんじくはお土産として人気が高い。

③蔵王温泉グッズ

蔵王は温泉地としても有名である。JR山形駅からバスに乗り、約40分。細い坂道に沿って旅館や飲食店が建ち並び、温泉街のメインストリート・高湯通りにある「Zao Onsen 湯旅屋 高湯堂」は日本初の温泉コーデショップ。蔵王温泉の名前が入った温泉グッズや入浴剤、温泉化粧品などがお土産として人気である。



54回生の蔵王スキー旅行の様子(2018年第252号より)

一学期後半から徐々に支度が始まった60回生の修学旅行は、レンタルするウェアと靴のサイズの確認や、班分けのための実力アンケート、レクリエーションなどの計画、文化体験の内容決め、部屋割りなど順調に進んでいる。修学旅行実行委員会の新聞係は、二学期中頃から集まり、二学期に向けて山形や蔵王、宿泊する施設やお土産などを紹介する新聞を製作し、各クラスに掲示した。また、しおり係はしおりに掲載するコーナーのため、先生方のあるあるや歴史などを聞くアンケートも行った。完成した修学旅行のしおりは三学期に配布された。しおりに先生方が自筆したプロフィールや、移動



修学旅行のしおり

時間にみんなで楽しめるゲームなどが掲載されている。生徒たちもしおりに掲載されていた持ち物チェックリストを参考にしながら本格的に荷物の支度を始めているようだ。26日(金)には修学旅行の荷物を学校から各旅館へ配送した。また、二学期の教室の前には過去のスキー旅行の写真が大きく掲示されているので、ぜひ見てほしい。

60回生 いざ蔵王へ

着々と準備が進む

スキー修学旅行の始まり
錦城一回生の生徒が二年生になった1965年、修学旅行の計画が大きな課題として挙げられた。当時の高校の修学旅行は京都や奈良などの観光地が主流であったが、錦城高校の教員は「他では行っていないユニークなもの」という条件で新しい修学旅行について考えていたという。当時の体育科の先生であった舩巴先生は蔵王でのスキー旅行

となった。
1997年、錦城が男子校から共学へと変わる際には「スキー旅行だと女子は喜ばない」との意見が寄せられたことにより、一時期は海外旅行に決まりかける。しかし「男子校時代からスキー旅行を行っている理由がある。共学一年生をスキー旅行に連れて行くという意見もあり、共学一回生の修学旅行はスキーになった。修学旅行終了後にはほとんどの生徒が喜んでいたので、最終的に錦城の修学旅行は蔵王でのスキー旅行になった。

スキー修学旅行の変遷
一回生は蔵王まで観光バスを利用し、14時間かけて移動したそうだ。移動手段は28回生(1992年)から新幹線での移動に変更。35回生(1999年)からはスキーだけでなく、陶芸体験教室も日程に加えられた。さらに、44回生(2008年)からは5日目に仙台での自由時間も加えられる。50回生(2014年)

が迎えたスキー旅行50周年では、蔵王体育館で50周年記念式典が行われた。蔵王山の噴火警戒レベル引き上げや新型コロナウイルス感染症による影響で開催が見送られ、今回の60回生のスキー旅行は錦城高校としては56回目の開催となる。

皆さん、気づきましたか?



旧校舎裏の梁畑が伐採されました!
何ができるのでしょうか…?

修学旅行の心構えは?

2年学年主任の太田先生によると、錦城のスキー修学旅行は「蔵王の人が教員の代わり



修学旅行が楽しみです

りに錦城生にスキーを教えてくれたことがきっかけです」とのこと。昔は錦城の先生が直接スキーの指導をしていたそう。しかし蔵王の方々の優しさで、スキーを錦城生に教えてくれることになったのがきっかけだそう。来週から始まる修学旅行について「修学旅行を通して、生徒の皆さんが友達や先生との普段見ることのない一面を知ることができたらうれしいです」と太田先生。先生自身も普段と違うところに教え子が行けることが楽しみだそう。60回生には、慣れない雪山で転んでけがをしないように気を付けてほしいという。60回生に向けて「ワクワクしてその日を迎えてください」と呼びかけた。

第439号に誤りがありましたので訂正しお詫び申し上げます

【大会報告】

○陸上部

第72回元旦競歩大会 高校女子の部早川愛花(2L)9位

第26回新春駅伝競走大会 女子Aチーム3位入賞(区間入賞3名)

○将棋部 関東大会出場

【発行日(2面)】 1月19日(金曜日)



Photo: 瀬戸秀美さん
写真提供: (株)光藍社

部と有志の生徒が事前に学習を行った打ち合わせをした。11「芸術の力」を戦を戦っているウクライナ国立バレエの皆さんについての理解をよ

ウクライナ国立バレエ鑑賞・取材会に参加
12月24日(日)、東京国際フォーラムで開催されたウクライナ国立バレエ日本公演「雪の女王」の鑑賞・取材会に、錦城高校の新聞委員会編集部の生徒と有志の生徒が参加した。協賛の(株)CHINTAI様よりご招待をいただき、実現した。錦城高校では、編集部の生徒から質問に、寺田さんから真摯かつ熱意あるお話をいただいた。詳細は、今後発行予定の紙面にてお伝えする。

蔵王への愛を「めて

食べ物についての記事を見ても「あったか玉こんにゃくで一休み」という見出しの文章が、串に刺さったこんにゃくの写真とともに掲載されている。「口に入れると、まづ、出来立ての印が。『あつ』といった文章からはなんと美味しそうな様子が伝わり、寒い蔵王ならではのエピソードが際立つ。

また、山形市内の観光について書かれた記事では「願い牛なるものが登場する。願いは湯殿山神社にある牛の銅像で、なんと銅像の撫でた部分が良くなるのだとか!生徒たちが良くなるのだとか!生徒たちが、頭や、スキーで痛めた部分をさすっていたという話には思わず同情してしまう。私も最近腰を痛めたので、ぜひ画像を撫でてみたいものだ。」

中でも注目したいのが「蔵王で錦城生を待っている方がいます」という見出しで始まる文章だ。実は、前年の第55回生の修学旅行は蔵王ではなく、岩手県の安比が舞台となっていた。そのため、56回生の修学旅行蔵王で行われるのは一年ぶりだったのだ。

松金家アネックスという旅館の大女将を務める斎藤優子さんの取材では、錦城生が再び蔵王に戻ってきたことを喜び様子が記されている。「最後の日に「楽しかった」と言っていた」

写真を多く使い、蔵王の雰囲気伝える
「Love蔵王」
もう卒業してしまった先輩方の気持ちをこうして紙面を通じて共有するということが何とも不思議な感覚である。修学旅行で得られる人と人との繋がりは勿論、当時の錦城生と現在の錦城生の心も新聞を通して知ることができると、錦城生の蔵王に対する愛が感じられた。

大会報告

ハンドボール部
▽1月14日
武蔵村山ゆりと杯争奪ハンドボール大会
女子の部
第3位

生徒会動静

1.23~1.25
修学旅行実行委員会活動中
合唱祭実行委員会活動中
中央委員会
1月23日
テレビ東京「田村淳のタカトビ」出演
1月24日
代議員会
1月25日
中央委員会
新入生歓迎会
1月25日

もらえたときには、思わず涙ぐんでしまいます。人と人とのつながりがより深まった修学旅行の様子がうかがえる。本紙面の中央には「ただいま!蔵王」という文字が大きく書かれている。理由は違えど、「ただいま!蔵王」という状況は、コロナ禍の影響から抜け出し4年ぶりに蔵王に行けることになった60回生とよく似ており、共感ができる。それだけではなく、「久しぶり!」ではなく「ただいま!」というフレーズであることに、錦城生の蔵王に対する愛が感じられた。